

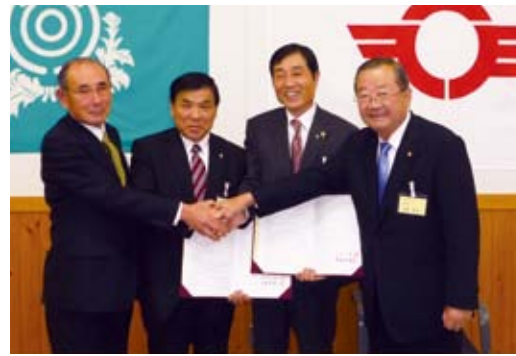


魚さばきを体験

石鏡漁港で11月15日、市立鏡浦中の全校生徒24人が、鳥羽磯部漁協石鏡支所関係者らの指導を受けながら、魚をさばいて干物を作る体験をしました。

カマスやカワハギを丁寧にさばいて洗い、塩をすり込んでいく工程の中で、地元の漁業者と触れ合い、漁業と食生活についての理解を深めました。

作業した魚は後日学校で天日に干し、自宅で味わったそうです。



災害発生時にはお互い助け合おう

11月6日、市は災害が発生した際に被災自治体の災害応急復旧活動のために「物資・機材・車両の貸付」「食料、飲料水、生活必需品の提供」「職員の派遣」など相互に応援協力する災害時相互応援協定を長野県飯島町と結びました。同町役場で行われた調印式には両市の関係者39人が出席しました。

平成20年7月に行われた中部5県で構成する会議で高坂飯島町長と交流が始まり、昨年3月に発生した東日本大震災を受けて協定の締結に至りました。



超高齢社会を生きるには

市は10月27日、市民文化会館大ホールで、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるようにと「市民でつくる介護保険」どうする在宅介護」と題した市民フォーラムを開催しました。

第1部では東京大学名誉教授の大森彌氏を招いた特別講演が行われ、少子高齢化が進む中、超高齢社会を生きるには地域が主体となった在宅介護などの自立支援が必要であることを話されました。



鳥羽の玄関口に賑わいを

鳥羽マリンターミナルで11月3日～4日、佐田浜地区の賑わいと市民と観光客の交流を目的に鳥羽マリンフェスタ2012が開催されました。

会場では、「食彩 風の広場まつり」として地元で採れた牡蠣や干物などを揃えた物産市があり、多くのかたで賑わいました。さらに先着250人に牡蠣とおさ味噌汁が無料で振る舞われ、訪れた市民や観光客の寒さで冷えた体を温めました。

また、2日目には二足歩行ロボットのデモンストレーションが行われ、小さなロボットがまるで生き物のように軽快に動く様子に会場にいた子どもたちは興味津々で見入っていました。